

二宮尊徳とは

天明7年7月23日（1787年9月4日）相模国足柄郡しがみのくにあしがらぐん
栢山村かやまむら（いまの神奈川県小田原市）に農家の子として生まれた尊徳は、小さいときの名を金次郎とといいます。

父母を早くに亡くし、家がつぶれてしまった金次郎兄弟たちは親戚にばらばらに引き取られました。19歳で我が家にもどった金次郎は、家を修理し荒地を耕し、少しずつ亡き父の田畑を買い戻していきます。そして、23歳で家の再興を果たしました。

家をたて直した金次郎のもとへは、次々と自分たちの家や領地のたて直しの依頼がきました。25歳のときには小田原藩家老服部家の財政たて直し、34歳のときには小田原藩主の命を受け、藩の分家の領地である下野国桜町領（いまの栃木県二宮町）のたて直しに着手しました。

これらの功績は幕府にも認められ、農民であった金次郎は武士として取り立てられ、66歳のときには幕府の領地である日光（いまの栃木県日光市）のたて直しを開始しましたが、志半ばにして69歳でこの世を去りました。